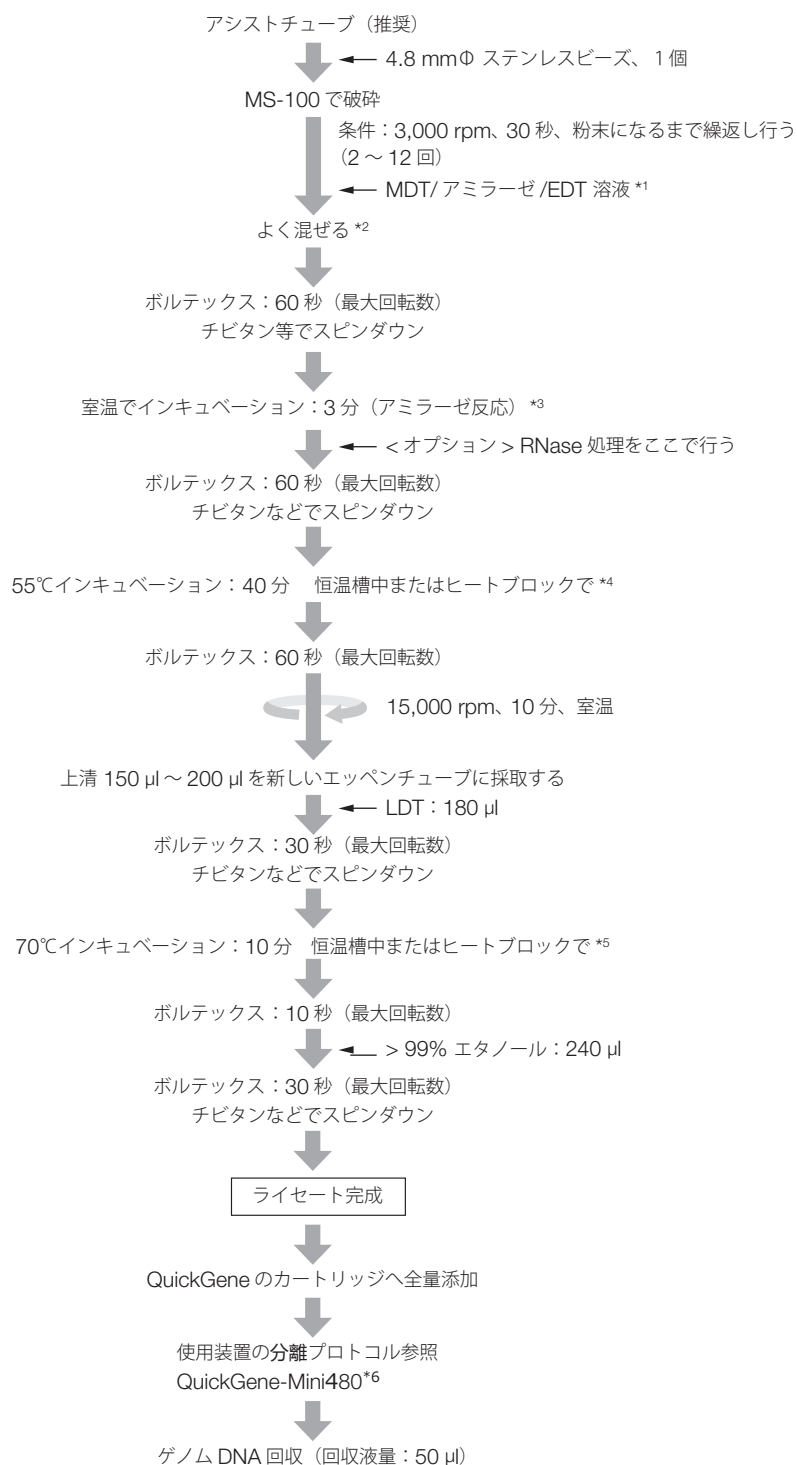


DB-2

# アマランサス種子からのゲノムDNA分離

## プロトコル



\*1 SIGMA A-3403  
1 サンプルにつき  
αアミラーゼ\* .....1 µl  
EDT (ProK) .....20 µl  
MDT.....180 µl  
アミラーゼを入れると収量が 10 倍近く上がるが、PCR 実験は未確認のため、PCR がかからなければ操作を削除。

\*2 ビーズがはまり込んで動かない時には、チューブを逆さまにして机上で 1 回叩く。  
ビーズを壁内をまんべんなく這わせるようにチューブを振りながら回転させ、ムラをなくす。  
初めはもちもちだが、水に溶かした小麦粉状になる。

\*3 ProK はこの温度では働かないが、アミラーゼが働く。

\*4 ProK によるタンパク質分解過程。

\*5 アミラーゼを使用しているため、より強力にタンパク質を壊すため。  
\* PCR のかかりが悪いなど、トラブルがある場合は操作を削除。

\*6 本事例は旧機種で取得したデータも含まれます。  
その他 QuickGene シリーズでもこのプロトコルをご参考頂けます。

## 結果

---

- 電気泳動図  
データなし
- ゲノム DNA の収量  
データなし
- タンパク質の混入：A260/280  
データなし
- グアニジウム塩（カオトロピック塩）の混入：A260/230  
データなし
- その他  
データなし

## 共通プロトコルサンプル

---

データなし